

★檀家さんに聞く



仏教はインドから中国へ伝わる途中、中央アジアのオアシス国で篤く信仰されていました。そのオアシスでは古くからブドウが栽培され、中でもトルファンのブドウは現在でも有名です。

今回はそんなブドウの意外なお話と、家業を受継ぎ作物に懸ける想いについてお聞きしてきました。



果樹園には様々な品種100本余りが植えられています。

伊野町波川在住の畠山健さん



ブドウの花



畠山果樹園オリジナルの梨博水(ハクスイ)

畠山 健さん（以下）： 親父もそうやったけど、僕もヘルニアが腹側に出ちゅうで。(笑)

（坊）ずっと空を向いて身体を反らす作業ですもんねえ。

（畠山）土を耕すのは冬だけ。今年は400トン客土した。まあミネラル補給みたいなもんよ。

（坊）まずはこの果樹園の歴史から教えてもらいたいがですね。

（畠山）もとはお爺ちゃんが開墾して梨を植えたことから始まっちゃうねえ・・・。今でも心に残っちゃうのが直売を始めて

（坊）すごい手間がかかるんでしょうねえ。

（畠山）じつは高知県は沖縄県より紫外線が強いがね。最近その紫外線を透過する包紙なんかも開発されて、ここでも活用させてもらいゆう。とにかく今の時代の百姓は前例がない事をやっていかんと後が続いていかんがよ。意外に知られてないけど、世界で栽培されゆうブドウの内、生食用はたったの0.3%とかながね。それやきこれから時代、日本のスイーツみたいなブドウを海外の富裕層にもっと売り出していったら面白い事になると思う！

（坊）それは若い作り手の人も夢が持てますねえ。

（畠山）でも百姓は継がりを絶やさんことが地味に大事ながよ。学者さんの知識はあっても、実際に15年ばかりは経験してみると技術の応用がわからんねえ。研究室で開発された新しい事をいざやってみる時に、素人を集めてやらせてみてもできんがよ。昔からその作物の成長を見守ってきた百姓がおらにやいかんと思う。

（坊）今は目先の成果ばかりで、企業の研究開発の予算は毎年削られていきゅうらしいですきねえ・・・。

（畠山）「おんしゃは三代目の百姓ぞ！」ってお爺ちゃんによく言われたのを僕は謙虚に受け止めちゅう。(笑)

（坊）良いお話を聞けました。収穫が楽しみですね！

細長い果実が特徴。
食感はグミのよう。

販売時期

8月上旬から

10月下旬

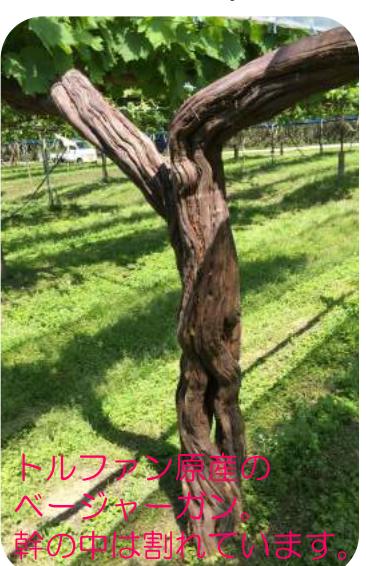
梨：7品種

ブドウ：40品種

電話 0889

892-0326

贈答用に対応可能



この田は種なしにする作業の真っ最中。



（畠山）ターファンの実（5月30日撮影）

トルファン原産の
ベーシャーファン。
幹の中は割れています。